

# 令和4年度徳島市八万中学校総括評価表

学校教育目標：人権を尊重し、知・徳・体の調和のとれた人格の形成のもと、未来に向かって生きる生徒の育成 (今年度の重点目標)～チーム八中 輝け八中生～ 1 豊かな心の育成 2 たくましく生きる力の育成 3 学力の向上 4 家庭・地域との連携				
本年度の重点目標 【評価項目】	具体的な活動計画 及び 【評価指標】	自己評価 達成状況と実施状況	学校関係者評価 評定	学校関係者評価 意見
<b>1【豊かな心の育成】</b>				
①他人を思いやる心や感動する心の育成。	①年間計画に沿った、道徳・人権の授業を展開する。 ②職員会議や各種委員会を通し、全ての教職員の共通理解を図る。 ③学力向上検討委員会で本校の課題について話し合い、解決策を検討する。 ④アンケート調査や教育相談等を通して、生徒の人間関係の状況やいじめにつながる事案等の把握に努める。	【評価指標】 ・友達や自分を大切にできる生徒が <b>85%</b> 以上。	A	・善悪の判断はできて、行動が伴わないことも多い年齢である。中学生で自分の言動を振り返り、考えることが重要となる。また、自分を大切にするとともに、相手を認めることができる人が育っていくことが求められる。
②人権尊重の精神の育成。	①年間計画に沿った、道徳・人権の授業を展開する。 ②職員会議や各種委員会を通し、全ての教職員の共通理解を図る。 ③学力向上検討委員会で本校の課題について話し合い、解決策を検討する。 ④アンケート調査や教育相談等を通して、生徒の人間関係の状況やいじめにつながる事案等の把握に努める。	【評価指標】 ・生徒の人権意識を高める指導をしていると感じている保護者が <b>80%</b> 以上。	A	・いじめをはじめとした人権問題について、生徒が主体的に考え、メッセージとして発信する取組等、生徒自身の豊かな人権感覚を育むことが必要と考える。また、さまざまな人権課題(同和問題やインターネットによる人権侵害や、性的マイノリティや障害のある人への差別等)に対して、教育活動を通じて、対応した教育の充実に努める。
<b>2【たくましく生きる力の育成】</b>				
①仲間と共にさらに良くなろうと、問題解決を図る力の育成。 ②望ましい集団活動を通して、生き方について自覚を深める。	①互いの良さを認め合えるよにと、常時指導を行う。 ②組織的に対応ができるように、「報・連・相」の周知徹底を行う。 ③学校行事の中で、生徒一人一人の力を伸ばし、粘り強く育てる。 ④行事・体験活動の実践を行う中で、生徒会活動の充実と推進を図る。  【評価指標】 ・学校のルールを守り、友達と共により良い学校生活を送る生徒が <b>85%</b> 以上。	「学校のルールを守り、同じ学校の友達とより良い学校生活を送ることができている」では、「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した生徒が <b>97(95)%</b> であった。 日常生活を振り返り、お互いに心地よく生活できるようにするためにはどうすればよいかと考え、深める必要があると考える。	A	・自らよりよい学校生活の実現に取り組む意欲、集団や社会の一員としての守るべきルールやマナーの習得、望ましい勤労観・職業観の育成等、生き方を考える時間が必要。 ・よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動を、一層明確にする。また、生徒会活動を通して育てたい態度や能力を新たに目標として示す。特に、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度の育成を重視すべきと考える。
<b>3【学力の向上】</b>				
①与えられた課題や小テストに意欲的に取り組み、基礎学力の定着を図る力の育成。	①各教科で、生徒に身につけさせるべき基礎学力の内容と取組方法を明確にする。  【評価指標】 ・授業を通して基礎的な知識や技術が身についたと感じている生徒が <b>80%</b> 以上。	「授業を通して基礎的な知識や技術を身につけることができている」に対して、「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した生徒が <b>96(95)%</b> となっている。 「教える授業から考えさせる授業」へ、未来に向けた教育改革を考える。	A	・学び合い(自分の考えを伝える、友達の考えに耳を傾ける)等を通して、自分の考えを再構築させる。また、自分の考えを深めさせる。そのようなことが、自分の考えに自信を持たせることにもつながっている。このような学び合いの機会を持つことで、学力の向上にもつながる。教師も、このような学び合いを意識し、子供たちの考えを深めさせていくことを重視するとよい。
②目的や場面に応じ、適切に話したり聞いたり話し合ったりして、自分の考えを豊かに表現する力の育成。	②相手意識・目的意識・場面意識・方法意識・時間意識・評価意識に配慮しながら、指導を行う。  【評価指標】 ・自分の考えを他人に伝えたり、文章に書いたりすることは得意であると感じる生徒が <b>70%</b> 以上。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが得意である」に対して、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した生徒が <b>57(50)%</b> となっている。 自分の考えを聞いてもらえた、もっと伝えたいという、成功体験を積み重ねたいと考える。	B	・話の理論的な構成や展開などに注意して聞いたり、必要に応じて質問したりする。また、話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、話す表情(高低・強弱・緩急)を交えた体験が必要と考える。 ・自ら進んで学ぶ姿勢を育むよにと、教師の働きかけが求められている。全ての生徒が落ち着いて学べる場・活躍できる機会をもてるよにと、心掛け、働きかけるように努める。
③授業の準備・チャイム着席ができ、チャイムとともに授業を始めることができる。	③全教職員の共通理解のもと、生徒に意義等を周知徹底し指導を行う。  【評価指標】 ・授業等、チャイムスタートできている生徒が <b>85%</b> 以上。	「授業準備をしてチャイム着席ができている」に対して「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した生徒が <b>93(91)%</b> となっている。生徒自身が内発的動機づけによって、行動できるような指導を継続させると考える。	A	
<b>4【家庭・地域との連携】</b>				
①オープンスクールや日々の教育活動について、適切に情報発信する。	①開かれた学校として、HP・学年だより・学校だより等を発行し、学校の様子を発信する。  【評価指標】 ・学校は、保護者に学校の様子をHP・学校だより・学年だより等でよく伝えることができていると感じている保護者が <b>85%</b> 以上。	「学校は、保護者に学校の様子をHP、学校学年だより等で、よく伝えている」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者が <b>73(83)%</b> となっている。感染症の状況を加味しつつも、様々な教育活動を実際に見、教育活動に対する理解を深めてもらう取組を考える。	B	・「家庭・地域との連携を深めるために、学校はどのような情報をどのように発信すればよいか」という点について協議する必要がある。また、中学校は小学校と違って、保護者等は、敷居が高く感じられており、どのように関わってよいかわからない。コロナの影響もあるように感じる。
②地域の教育力を活用する。	②地域の行事への積極的参加や人材活用により、地域の持つ教育力を積極的に取り入れる。  【評価指標】 ・学校は、地域行事への参加や地域の人材活用など、地域との連携が図られていると感じている保護者が <b>85%</b> 以上。	「学校は、地域行事への参加や地域の人材活用など、地域との連携が図られていると感じる」に対して、「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者が <b>62(71)%</b> となっている。感染症の状況を加味しつつも、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動を考える。	B	・情報発信する際には、学校教職員や生徒のプライバシーを守る観点から、個人情報や特定の人物が限定できないように配慮する必要がある。また、言葉だけではイメージが伝わりにくいため、プライバシーに配慮した画像も有効と考える。 ・生徒たちの将来、生徒たちの成長・発達に向けて、何よりも生徒を中心の軸において検討することが必要である。また、従来の地縁団体だけではなく新しい人と人のつながりも生む必要がある。

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった

